

「富士宣言」発足記念 東京シンポジウム開催

5月15日、「富士宣言」発足記念東京シンポジウムが、東京の国連大学で開催され、様々な分野、文化、世代から、富士宣言の理念・価値観に賛同し、人間に宿る「神聖なる精神」をそれぞれの形で表現している50名のリーダーたちが、世界各地から集いました。そして、互いの先進的な考え方、開拓してきた多様な道などから、学び合い、洞察を深め合い、私たち人類が目指すべき、富士宣言を体現したポジティブな未来のビジョンを共創しました。

オープニング

発起人挨拶

午前10時、国内外から集ったリーダー50名が会場内に着席すると、共同発起人3名の挨拶が、西園寺裕夫理事長、西園寺昌美会長、ブダペストクラブ創始者のアーヴィン・ラズロ博士の順番で行われ、シンポジウムはスタートしました。

西園寺理事長は、新しい文明を築くには、技術論、方法論も大事だが、それだけで成し得るものではなく、人類の意識改革が大前提であり、その要諦となるべき重要な意識・価値観が富士宣言に込められていると語りました。

そして、富士宣言の理念に沿った生き方をする人々の数が増え、それがクリティカルマス(臨界質量)に達することができたらば、「私たちは、より調和のとれた、新しい文明を創造する道を歩むことでしよう」と語りました。



「富士宣言」共同発起人の西園寺裕夫理事長(写真左)、アーヴィン・ラズロ博士(写真中央)、西園寺昌美会長(写真右)

西園寺会長は、「人類は今、大きな一歩を踏み出そうとしています。一人一人が進化と自己創造に向かっているのです」と述べ、さらに、富士宣言は、人類の意識の急速な変容を促進するものであると共に、一人一人が調和へと向かう、宇宙の法則に沿った生き方をすることにより、今日の混沌とした世界を共に乗り越えていけるよう、勇気づけてくれるものであるとも説明しました。

そして、「すでに神聖なる精神を発揮している人々が、さらなる地球の進化を願い、率先して生きていくことが重要です。その喜びに溢れ、輝きに満ちた生き方に、周囲の人々は触発され、富士宣言に賛同したいと思うことでしょう」と、力強く語りました。

イタリヤから来日したラズロ博士は、富士宣言の重要性を専門である科学的見地から語りました。

「何の物質も存在しない。あるのは互いに結びつくエネルギーである」と唱えたドイツ人の物理学者マックス・プランクの量子論の理論を紹介し、「万物は“同相”の振動で構成されており、一体となって機能し、生命を生み出すコヒーレント(統制のある)なシステムです。一つのコミュニケーションの中でコヒーレンス(統一性)が築かれるにつれて、そのコミュニケーションは一体となって振動し、多様性がありながらもそこから統一性が発現します。ここで私たちが忘れてしまっているのは、そうした統一性のあるシステムでは常に、相互の関係を通じて、私たちが生み出されており、私たち人類は、そのシステムの一部であるということです。



宇宙を創造するのは、神聖なる意識です。そこにある一体感こそ、現実世界の最大の本質、生命の鼓動です。そして、その神聖なる意識とは、私たちのみに存在するものではありません。それは、私たちそのものです。富士宣言が訴えるのは、まさにこのことなのです」

発起人により、富士宣言の意義が改めて語られたことで、会場全体に富士宣言の重要性が再認識されると、次のプログラムへと移りました。

プログラムは、参加者全員がそれぞれの英知やストーリーを持ち寄り、共有することで、集合的なインスピレーションを生み出すことを目的に、グループディスカッションを中心とした対話形式で進められました。最初のディスカッションは、会場を移し、数名の小グループに分かれて、富士宣言に共鳴したところや本シンポジウムへの参加の動機などを共有しました。

導入プレゼンテーション

「あなたの人生を導いてきた使命、深い問いはなんですか」

グループでの理解や共感が深まったところで、再びホールへ会場を移し、富士宣言が提起する深い問いや自分の人生をつくる原点となった使命について、参加者の中から5名に語っていただきました。このプレゼンテーションから、富士宣言が投げかける、生命への根本的な深い問いを全員で熟考していきました。

まず、ボランタリー・シンプリシティの提唱者であり、2006年度五井平和賞受賞者のデュエイン・エルジン氏は、人生を導いてきた最大の問いは、「自分は、どこにいるのか」であったと語りました。

農家に生まれ、自然も自分も同じ一つの生命だと感じて育ったエルジン氏は、進歩したビジネススクールの、「消費≠幸せ」の価値観に違和感を覚え、消費ではなく「貢献」することが幸せだと気づきます。そして、自分たちは生命体である宇宙の一部であり、ボランタリー・シンプリシティ（自発的簡素こそが、地球でより豊かな生活を送るための道だと語りました。

また、グローバルブレイン（人類全体の集合意識）が目覚めようとする現在、そこに至る大いなる変遷のストーリーを示すことによって、人々の神聖なる精神が再認識されるよう、マスメディアに働きかける必要性を強調しました。

二人目は、数々の賞を受賞している教育者のニーナ・マイヤー・ホフ氏です。「人間は何者なのか」という問いに加え、教育は自分の天命だと語る彼女にとって、「世界中の子どもたちは、どうすれば互いに心を通わせられるのか」、「子どもたちがつながりを形成するためにできる教育とは何か」が、長年の問いであり、生涯をかけてワネルネスを追究してきたと語りました。そのためにカリキュラムを作成し、若者と実践することによって、ワネルネスを体験することができたそうです。若者たちと共に国連で、「世界こどもサミット平和宣言」を策定

し、発表したことも貴重な体験であったこと、そして、「自分の中の神聖なる意識が、相手の神聖なる意識を認め、共に根源である愛へと向かうのです」と述べました。

遺伝子研究の第一人者である、筑波大学名誉教授の村上和雄氏は、イネの遺伝子の暗号解読をしたことにより、さらなる謎が生まれたといいます。

「あのミクロの世界に、完璧な機能を果たす遺伝子暗号を書き込んだのは誰か。それは自然界、神の領域の成せる技としか言いようがありません」と述べました。

また、生きとし生けるものは全て、DNA上の遺伝子によってつながっている。私たちの肉体の器官が、互いに協力し合っているのは、おそらく利他的な遺伝子の働きだろうと話し、さらに、「私は生命界を調和の世界と捉えています。利己主義や利他主義のレベルを超えた世界です」と結びました。

続いて、軍人の父から戦争の影響を受けて育ち、競争社会で生きてきたビジネスコンサルタントのパトリック D. コーデン氏は、仕事や家族など、全てのものを失った



導入プレゼンテーションでスピーチをした
パトリック・コーデン氏(写真右)とエリアーヌ・ウバリジョロ氏(写真左)

The Fuji Declaration

Igniting the Divine Spark for a Thriving World



午前中の小グループディスカッション。富士宣言に共鳴したところや、シンポジウムへの参加動機を共有。

時、「自分は何者であり、なぜここに存在するのか」という、最も重大な問いに気づいたと語りました。

また、人類の一体感を理解して以来、「神聖なる精神に触れるにはどうすればいいのか」、「人とのつながりから生まれる尊敬、信頼感、感謝を体験する機会が、恵まれた人々に限らず、あらゆる人々にもたらされるにはどうすべきか」を、何よりも強く自らに問い続けていると語りました。

最後は、ルワンダ出身の分子遺伝学者、エリアヌ・ウバリジヨロ氏です。故郷の緑豊かな農村の自然から愛をもらい、神聖なる精神が育まれた思い出と同時に、1994年ルワンダ大虐殺の恐怖の体験から、人間、自然、そして地球を守る一助となることを人生の目標に定めたと言いました。

そして、「生きとし生けるもの全てが繁栄する地球社会を築く夢は、世界の数十億人と共有することができます。私たちが一丸となつて、今、求められている変革を成し遂げれば、暴力や環境破壊によって生まれた人々の苦しみを変容させ、地球上に平和が広がっていくことでしょう」と結びました。

分科会レポート

富士宣言の理念が現された 新しい文明へ向かう

「変革の兆し・ビジョン・アクション」

参加者同士の和やかながら積極的な交流風景が見られた昼食が終わると、午後は、本格的なグループセッションの始まりです。

分野別に七つのグループに分かれ、午前中の導入プレゼンテーションと同じ問いに対する自身のストーリーをそれぞれ披露した後、「富士宣言を現した新しい文明に向けて」というテーマで、三つの問いについて話し合いが行われました。

〈分野別グループ〉

1. 経済・ビジネス
2. 教育
3. 環境・テクノロジー
4. メディア・文化
5. 政治
6. 科学・意識
7. ガバナンス・社会運動

〈問い〉

1. その分野における、富士宣言の理念に合致するような変革の兆しとは。
2. その分野における、新しい方向性やビジョンとは。
3. その分野において、富士宣言の理念を実現させるためには、どのようなアクションや戦略が有効か。

ディスカッション終了後は、どのグループからも、人間の意識が新たなパラダイム（規範・枠組み）へと向かうための多彩なアイデアや取り組みが提案されました。

以下、グループごとに紹介します。

1 経済・ビジネス

*変革の兆し（新しい発見・動向・プロジェクトなど）

・ 変革型リーダーや社会起業家の登場、Bコーポレーション（社会貢献型企業として認定された企業）の増加、成功は善行に

よつてもたらされる（doing well by doing good）という行動変化への関心の高まりが見られること。

・ 従来の対価ではなく、互いの信頼関係に価値を置いた「ギフト経済」のような新しい経済モデルが登場していること。

*ビジョン（これからの方向性・新しいモデルなど）

これからの経済・ビジネスは、現在のパラダイムを超越し、平和・愛・信頼・寛容・相互のつながりを第一に据えたものであり、それは、人類の意識の進化に沿うものである。

この経済モデルでは、女性の能力とリーダーシップが重用され、人間の可能性が最大限に発揮されると共に、一人一人を大切にすシステムが築かれる。

また、こうした経済モデルに基づくビジネスは、企業活動が環境に与える影響など、見えないコストを計算に入れ、長期的視野に立つて利益を追求する。そして、競争を繰り広げるのではなく、新しい形の協働を促進し、人類、コミュニティ、地球への奉仕を目的に組織される。

*アクション・戦略

・ 個人の生活に始まり、家族、地域、世界まで、あらゆるレベルでつなぎ、総合的な変容を可能にする社会基盤を構築する必要がある。

・ 自分たちの生活や組織の中で、例えば、見返りを求めない純粹な愛の言行を実践するなど、新しいモデルを体現していく。



分科会「経済・ビジネス」のグループ

・人々の間に調和を生み出す、良い習慣を継続的に実践する(愛と平和の祈りを行うなど)。
 ・「良い逸脱 (Positive Deviance)」^{ポジティブ・ディヴァיאンス}、即ち、革新的で素晴らしい実例を見つけ、広く宣伝する。

メンバー●**ヴィラル・メータ**(インド・アメリカサイ
 ビス・スペース共同創立者)●**大橋光夫** 昭和電工株
 式会社最高顧問●**木内孝** 株式会社イースクエア代
 表取締役会長●**柴田光廣** コンサルタント●**パヴィ
 ・メータ**(インド)作家●**パトリック D. コーデン**(ド
 イツビヨンド・リーダーシップ創設者)●**フレデリッ
 ク・ツアオ**(中国)IMCパン・アジア・アライアン
 ス・グループ会長●**モハマッド・ブイアン**(アメリカ
 2015アトランタ・ノーベル平和賞受賞者世界サ
 ミット会長)

2 教育

***変革の兆し**(新しい発見・動向・プロジェクトなど)
 ・学校で意識的な生き方を教えたり、非暴
 力の教育が一般的になってきたこと。
 ・若者対象に、自己変革のためのワーク
 ショップを実施する組織が増えていること。
 ・民間からの講師、異世代間や学生同士が
 学び合うなど、教師の形や、学びの形が
 多様化していること。
 ・誰もが教師であり、誰もが生徒であると
 いう考え方が広がっていること。

***ビジョン**(これからの方向性・新しいモデルなど)
 これからの教育は、生徒も教師も、人間

としての可能性を最大限に発揮できるよう、
 神聖なる精神を育むものでなければならな
 い。そのためには、心と頭と体を平等に重
 視した教育を行うべきである。
 そうすることで、生徒も教師も成長し、
 人類に奉仕する世界市民となるのである。

*アフション・戦略

真のインテリジェンス(知性)は、人間の
 価値を大切にする教育によってのみ導き出
 される。
 富士宣言にあるように、意識的且つ責任
 感を持って生き、周りを変えるために、ま
 ずは自らを変えなければならない。

メンバー●**カズ・ハガ**(アメリカイースト・ポイン
 ト・ピース・アカデミー創立者)●**シャミマ・アミン** ア
 メリカユヌス・クリエティブ・ラボCOO●**ス
 ワーミ・サッチョージャター**(インド)アート・オ
 ブ・リビンググローバル・ディレクター●**関根健次**
 ユナイテッド・ピープル株式会社代表取締役●**ダイア
 ナ・パークハルター**(アメリカ)ホメオパシー&ライ
 フコーチング専門家●**ニーナ・マイヤー**ホフ(アメリ
 カ)チルドレン・オブ・ジ・アース創立者●**吉川里香**
 ワールド・ピース・プレヤー・ソサエティ副理事長

3 環境・テクノロジー

***変革の兆し**(新しい発見・動向・プロジェクトなど)
 ・人間がホモ・サピエンス(知性)から、ホ
 モ・ソシエンス(精神性)へ進化したことあ
 ること。

・あらゆる市民が、良識ある選択ができるよ

うな教育や啓発活動が広まっていること。
 ・大量の廃棄物は、再利用可能なエネル
 ギーにリサイクルすべきという概念が普
 及していること。
 ・生産から消費に至るまで、環境に配慮し
 たトータルデザインが増えていること。

*ビジョン

(これからの方向性・新しいモデルなど)
 ・あらゆる生命と思いやりのある関係を築
 いていく。
 ・自らの内面に深く入り、心の声に耳を傾
 けることで人間の進化を図る。
 ・未来のチェンジメーカーを育てるために、
 持続可能なデザインについて教育を行う。

*アフション・戦略

心と魂を育む社会を次の手段で共創する。
 ・次世代リーダーの国際的なネットワーク
 を形成する。
 ・ステークホルダー(利害関係者)、デザイ
 ナー、チェンジメーカーをつなげる。
 ・ディープ・エコロジー(自然界はつなが
 り合い、内在的な価値を有するという環
 境思想)教育プログラムを提供する。

メンバー●**エリannah・ウバリジヨロ**(ルワンダ・
 カナダ)分子遺伝学者●**セスト・ジョヴァンニ・カ
 スタニョーリ**(スイス)ワールド・スピリット・フォー
 ラム創立理事長●**高橋百合子** E. OCT株式会社社
 代表取締役●**太刀川英輔** NOSI GENER 株式会
 社代表取締役●**ピーター D. ピーターセン** 株式会
 社イースクエア共同創業者●**増川いつみ** 栄養学及
 びバイオ電子工学博士●**リンダ・ベンダー**(アメリ



分科会「環境・テクノロジー」のグループ

カ動物擁護団体フロム・ザ・ハート共同創業者

4 メディア・文化

***変革の兆し** (新しい発見・動向・プロジェクトなど)

- YouTubeやブログなど、ソーシャルメディアによって、メディアは民主化され、多くの人々の声が広く届けられるようになったこと。

- 良識あるメディアや地球的視野を持った報道が増えていること。

- 世界市民は、情報通信技術によって、地球上のあらゆる場所で起こっている重要な出来事を瞬時にキャッチできるようになったこと。

- 人類という家族にとつて、より深遠な新しいストーリーが誕生しつつあること。

富士宣言はその好例。

***ビジョン** (これからの方向性・新しいモデルなど)

これからの新しいメディアは、人類全体の利益に資するものであり、持続可能な未来を支えるもの、即ち、愛をベースとして誠実に情報を伝え、教育し、心の底から人々を奮い立たせるものでなければならぬ。

また、私たちはそれぞれのストーリーを共有し、言葉を通じて周囲に影響を与えることが可能である。

つまり、新しいメディアは、私たち自身である。

***アクション・戦略**

有害なメディアは、見ないように人々へ

働きかける。

- 参加者が各々のネットワークにおいて、富士宣言に関する記事やビデオを発信する。
- ウェブ上に『Divine Spark』(神聖なる意識)

TVをつくり、富士宣言のビジョンや理念、このシンポジウムの成果などを発信する。

メンバー ● **ケイティ・ティーク** (アメリカドキュメンタリー映画監督『マネー&ライフ』/『龍村仁』映画監督『地球交響曲』/『デュエイン・エルジン』(アメリカ未来学者)野中ともよ NPO法人ガイア・イニシアティブ代表) ● **バーバラ・アレドンド** (メキシコ) ● **アイ・アム・ヒア** (シリーズ創業者) ● **CEO/ベン・ハート** (アメリカシフト・ネットワーク・マーケティング・ディレクター) ● **リル・マセ** (フランス) ● **リル・マセTV** (ホスト)

5 政治・ガバナンス・社会運動

***変革の兆し** (新しい発見・動向・プロジェクトなど)

次のような新しいコンセプトによるものが挙げられる。

- ブータンの国民総幸福量(GNH)、国際刑事裁判所、チャーター・フォー・コンパッション(思いやり憲章)というイニシアティブ、黄金律(自分がして欲しいことを、他人にもしてあげる)を呼びかける

日、医師の職業倫理が書かれた『ヒポクラテスの誓い』のビジネススクール版の登場

環境や社会に配慮した商品・サービスの選択するエシカルコンシューマー運動、21日間の親切チャレンジというプロ

ジェクト、誰でも編集でき、1億時間もの無償奉仕によって成り立っているウィキペディアのようなインターネット経済の登場など。

***ビジョン** (これからの方向性・新しいモデルなど)

富士宣言を広め、他の組織や政府機関と協力して、人類全体の意識変革を図ることが私たちのビジョンである。そのために、次のことを実施する。

環境を大切にする、ボランティアセクターに働きかける、安全保障に関する意識を変える、コミュニケーションの信頼関係を構築する、未来への責任意識を育む、多様なネットワークを介して、全体に利する多様な解決策を生み出す。

***アクション・戦略**

富士宣言を多言語に翻訳し、政府組織や市民社会団体などに広めると共に、各セクターの課題を扱う会議を企画する。

今日、私たちの世界では、相互の結びつきが強く、問題の一つ一つがあらゆる事柄と関連性を持っている。

従って、これに要する枠組みとして、多様な問題を解決するための多様なソリューションが必要となる。

富士宣言の価値を広め、社会変革を促進する教材をつくる必要があり、例えば「富士宣言を生きたるための五つの方法」などを考案し、各自の日々の言動に取り入れる。

メンバー ● **グリ・メータ** (インド) ● **アメリカサ**



分科会「科学・意識」のグループ

ビス・スペース共同創立者／西園寺裕夫 五井平和
財団理事長／田坂広志 多摩大学大学院教授／デイ
ビッド・フリーガー（アメリカ）核時代平和財団創立
者／ニッポン・メータ（インド・アメリカ）サービス・
スペース共同創立者／広中和歌子 元環境庁長官／
ムセ・ハイル（エチオピア）URーアフリカ地区担当
ディレクター

6 科学・意識

***変革の兆し**（新しい発見・動向・プロジェクトなど）

意識と科学に見る、変革の兆しは、次の通りである。

意識とは、個々に分離した人間の脳がつくり出しているものであるという、従来の考え方に疑問を投げかけ、むしろ個々の脳を超えて世界全体に広がる「場」であると考える。脳はこの「意識場」の情報を受信または発信し、伝達するものに過ぎないのである。意識場が確かに存在していることは、様々な実験結果から示唆されている。特に人々の意識が時空を伝わって、他人の脳波や乱数発生器など、肉体や物質現象に影響を及ぼすことが確認されているのである。こうした意識場の仕組みは、物理学の弦理論における「膜」の働きとして説明できると考えられ、この膜は高次元時空に広がって存在しているものである。

***ビジョン**（これからの方向性・新しいモデルなど）

私たちが目指すものは、
・自然科学に根ざしたスピリチュアルな目覚め。

・意識を拡大・変容・進化させ、コヒーレンスと共鳴の力を示すような科学。
・意識というものを自然界の「情報」として捉えた研究。

***アクション・戦略**

「DOAS ONE」。つまり、ワンネスの精神で物事を行い、私たちの行動、思考、態度を他者と協調させることを意識する。
・計測の重要性と限界を認識し、その概念を広げる。

・知性を言葉によって惑わされない。
・意識は現実の世界におけるリアルな現象であることを唱道し、これを私たちの知識体系と行動に取り入れる。

・志のある人々と集い、意識というものに関して、以上のような根本的な仮説や疑問を共有する。

メンバー ● **アヴィン・ラズロ**（ハンガリー・イタリア）パダペストクラブ創設者および総長／**アラン・ブリスキン**（アメリカ）コレクティブ・ウィズダム・イニシアティブ共同創立者／**柴正太郎** 物理学者／**鈴木エドワード** 建築家／**砂子岳彦** 常葉大学経営学部教授／**ロジャー・ネルソン**（アメリカ）グローバル・コンシヤスネス・プロジェクト理事長

7 スピリチュアリティ・宗教

***変革の兆し**（新しい発見・動向・プロジェクトなど）

・宗教間の違いを超えた運動が誕生していること。
・スピリチュアリティと科学の融合が始まること。

り、食や医療の選び方など、様々な面で影響を与え始めていること。
・宗教界での女性の進出が見られること。
・個人の精神性が向上していること。
・様々な宗教における英知が認識され始めていること。

***ビジョン**（これからの方向性・新しいモデルなど）

スピリチュアリティと宗教の分野における私たちのビジョンは、多様な宗教をそれぞれ尊重しつつも、互いを兄弟姉妹とみなすことである。自分たちの中にある神聖なる精神を認識することで、私たちは地球社会にさらに貢献することができる。

***アクション・戦略**

今後の実践案としては以下のことが考えられる。

宗教系の学校において宗教間教育を導入する（できれば、宗教系に限らず全ての学校）、互いへの祈りを通じて異なる宗教を称え合う、国連の定める国際平和デーや世界宗教間の調和週間などの世界的な行事の場で祈りを捧げるなど。

富士宣言は、中立的な言葉で世界の偉大な宗教に共通する理念を掲げているため、個々の宗教の良き実践者となれるよう、私たちが力づけ、宗教間の交流を促進するものと考ええる。

メンバー ● **ジェームズ・チャナン**（パキスタン）URーパキスタン地区担当コーディネーター／**ジャマル・ラハマン**（アメリカ）シアトル・インターフェ

The Fuji Declaration

Igniting the Divine Spark for a Thriving World



プログラムの最後に各グループの発表をするファシリテーター。
写真右から「メディア・文化」グループのベン・ハート氏、バーバラ・アレド
ンド氏、「政治・ガバナンス・社会運動」グループのニップン・メーター氏

イス・コミュニティ聖地共同創立者／棚次正和 宗
教哲学者／チャールズ・ギブス（アメリカURR創
立エグゼクティブ・ディレクター／テッド・ファル
コンアメリカユダヤ教ラビ／デボラ・モルドウラ
メリカワールド・ピース・プレヤー／ソサエティ
国連代表／ハリジ（イタリア）ヨガ・ダルマ・コミュニ
ニティ共同創立者・ディレクター／ビビ・グル・イ
ンダー・カウル（イタリア）ヨガ・ダルマ・コミュニ
共同設立者／モラナ・アブドゥル・カビア・アザド
（パキスタン）バドシャヒ寺院グラウンドイマーム



非常に深い議論のできた一日が終わりへ
近づくと、全てのグループから、もう少し
時間が欲しいという声が寄せられました。
特に、富士宣言のアクションや戦略につい
ては、話し合いの時間が求められました。
最後に、このシンポジウムで得られた洞
察や心に留めておきたい事柄について、参加
者一人ずつからコメントをいただきました。
そのシンポジウムでありながら奥深く、希望
と英知に満ちた言葉には、富士宣言の本質
が凝縮されているかのようでした。
以下にそのいくつかを紹介します。

◆富士宣言の精神を実現すべく、今日から
毎日、少なくとも二つのことを実践したい。
◆世界で恐れることなく行動し、前進する。
◆心の兄弟姉妹と貴重な時間を過ごすこと
ができ、深く感謝している。
◆「世界に変革をもたらす神聖なる意識と
は私たち自身である」という考え方への
皆のコミットメントの強さに圧倒された。

◆富士宣言の明瞭な理念に改めて力づけら
れた。

◆平和との一体感を深い精神的なレベルで
体験することができた。

◆行動と意識とは、表裏一体であることに
気づかされた。

◆私たちがいかに強い存在であるか、いか
なることも可能であるかがわかった。

◆大きな問いを常に投げかけることが大切
である。

◆私が全面的に負わねばならない聖なる責
任とは、私に内在する神聖なる精神が放
つ炎を燃え上がらせることである。

◆富士宣言とは、互いに愛し合う術を私た
ちに教えてくれるものである。

◆意識とはそれ自身が愛である。

◆非暴力を求める声と神聖なる精神からの
声が高らかに、はつきりと聞こえる時が
来た。

◆意識という科学領域の発展に期待する。

◆特に心に残った言葉は「希望」。

◆このシンポジウムは、私たちを思いやり
と無条件の愛へ導くロードマップである。

西園寺会長は、一人一人のコメントに感
銘を受けた表情で、「今日は、感動的で特
別な日でした。この場所に集い、人類のた
めに神聖なる精神の復活に向けたムーブメ
ントにご参加いただき、心から感謝申し上
げます」とお礼を述べました。

ラズロ博士は、このシンポジウムが、完
璧に調和され、非常に深い洞察が得られた、
これまでに経験のない一日になったこと、

富士宣言が、大きな変革の波紋を生み出す
希望の一滴になり得ること、そして、「そ
れができるかどうかは、我々にかかっている
が、私はできると信じています」と結び
ました。

西園寺理事長は、「富士宣言のイニシア
ティブは、始まったばかりであり、新しい
文明の創造に向けて、皆さんと協働できる
ことを心から嬉しく思います」と、参加者
全員に感謝の意を表し、今日のような心
に残るディスカッションを再び日本で行いた
いと締めくくり、シンポジウムは閉会とな
りました。

